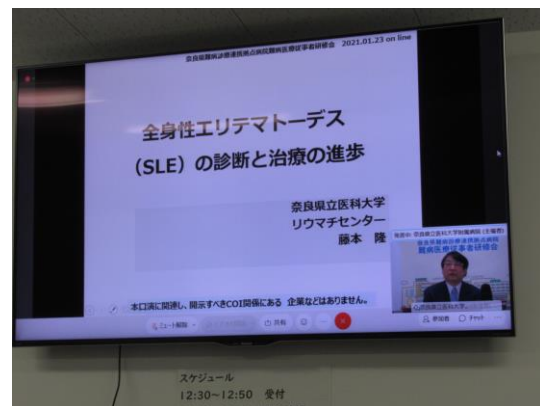


令和2年度難病医療従事者研修会報告



当院は、平成31年に奈良県難病診療連携拠点病院として奈良県より指定を受け、毎年、難病の早期発見、身近な医療機関での適切な疾病管理や安定した療養生活の確保を図ることを目的に、県内の難病医療従事者の皆様を対象とした研修会を実施しております。

今年度は、国内の新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、WEB配信での研修会となりました。開催間際のWEB配信への変更であったこと、WEB配信が初めての試みだったこともあり、受講者の皆様にはご不便をおかけしたことと思います。しかし、そのような中でも令和3年1月23日に大きなトラブル等なく研修会を開催することができ、医師、看護師、社会福祉士など68名の多職種の方に参加いただきました。

本研修会の開会にあたり、主催者を代表し、奈良県立医科大学附属病院難病診療連携拠点病院運営検討委員会委員長、奈良県福祉医療部医療政策局健康推進課課長からの挨拶の後、奈良県健康推進課より「奈良県の難病対策事業」について情報提供を行いました。

講演では、前年度のアンケートをもとに、特に希望の多かった疾患をテーマに、脳神経内科杉江和馬教授より「筋萎縮性側索硬化症(ALS)診療の進化と課題」、リウマチセンター藤本隆病院教授より「全身性エリテマトーデス(SLE)の診断と治療の進歩」と題して講演を行いました。それぞれの講演の最後には、チャット機能を使っでの質疑応答の時間を設け、WEB配信でも受講者の皆様とのディスカッションができた講演となりました。

研修後のアンケートでは、たくさんの方より回答をいただくことができ、その中には、「わかりやすく理解が深まった」、「今後の関わり方やケアに役立てたい」、「すぐに応用できそうな情報が多かった」といった感想や、次回の研修会のテーマについても多数のご意見をいただきました。

今後も奈良県の難病医療の向上を目指し、難病医療提供体制の構築に取り組んでまいります。